

1学期を振り返って

1学期を振り返って、一番の思い出は、やっぱりトライやる・ウィークです。

一人一人が荒中生代表として社会に出るといふ貴重な体験が出来ました。僕は市役所広報課に行きました。「仕事って本当に大変だな…」というのが一番の感想です。たとえば、昼休み。僕たちは休み時間でしたが、職員の方々は、ほぼ全員パソコンで仕事をしながらお昼を食べられていたことがとても印象的です。また、伊丹市の広報誌を作るために取材もさせていただきました。写真を撮ったり、記事を書いたりして、フェイスブックにアップするのですが、すべて自分で記事を考え、市役所の方にチェックしてもらいました。文として意味が通じないとか、誤字・脱字などたくさん指摘していただきました。文章を書いたりするのはもともと自信がありませんでしたが、自分はこのまですけなかったのか…と、とてもショックを受けました。苦勞して作った記事が、フェイスブックにアップされた時は、気になって仕方がなくなり、家に帰って毎日チェックしました。「いいね」があると、とてもうれしかったです。どこか大人に一步近づけたような気がして、毎日ワクワクし、今までにない達成感を得ることが出来ました。反面、大人になるために、この経験で学んだことを普段の学校生活に生かさないといけないと思いました。まだまだなにも知らない、足りないことばかりだとわかりました。中学校生活できちんとした人間力を身につけ、社会に通用する立派な大人になりたいです。

学校生活での立場も大きく変わりました。1年生の時は、中学生になるため、自分の事で精いっぱいになっていましたが、2年生になってからは、後輩ができたので、先輩としての自覚を持ち、後輩に見られているのだということを意識するようになりました。

先に行われた総体で、剣道部の先輩方が最後の最後まであきらめない姿を見て、改めて先輩のすごさを感じました。準決勝の時、僕は先輩の異変に初めて気づきました。前の試合で爪がはがれていたのです。それまでずっと痛みをおして試合に出ていた先輩にまったく気づかずびっくりしました。自分だったら消極的になりそうな場面で、引くどころか前に行った先輩の気迫と覚悟を肌で感じました。かつこい…その姿に心打たれました。これまでは先輩が後ろから常に見守ってくれていて、団体戦でも必ず後に先輩がいてくれること、勝ってくれることが本当に誇らしく、安心して試合に臨むことが出来ました。しかし、これからは自分たちが後輩を見守り、手本とされるように先輩としての姿を見せていかなければなりません。正直僕たちが後輩に何を教えられるのかとても不安ですが、自分ができることを必死で頑張ろうと、先輩の姿を見て決心しました。先輩方もそうやって悩み、努力されてきたのだということに、この総体で改めて気付くことが出来ました。後輩にと、僕らの先輩になれるように努力したいです。

2年生になって、僕は委員長に立候補しました。このクラスになってから僕はあることでずつと違和感がありました。2年5組は明るく元気いっぱいなのクラスで、5組のクラスカラーである白とクラスの雰囲気は僕の中でまったく合わなかったからです。虹色でもいいのではないかと思うぐらい個性が豊かです。それが良い方向に行くこともあってうれしい事もあります。授業中うるさくて、先生に叱られることもあります。今のままでは、まだまだメリハリがなく改善点が多いクラスです。しかし良いところもたくさんあります。みんなで考えて改善点の一つ一つなくしていけたら、きれいな虹色に輝けると思います。5組だけではなく学年で虹色に輝けたらもっともつと良いと思います。目標があっても、一人では決して達成できません。今、この瞬間を後悔しないように、2学期からも、みんなで一生懸命頑張ります。

2年生代表 辰巳瑛星

落ち着いて、やりくり堂々と!! 自信をもって!!